

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 1		
【地域と一体となって「島根に愛着を持ち島根を元気にする」人材育成・定着を強化する】 自治体、産業界、教育界等との協議により地域のニーズを把握・共有し、「地域愛にあふれ、地域課題を把握し、リーダーシップを発揮して地域の未来を牽引することのできる人材」を育成すると共に、県内就職者を増加させる。		
		Ⅱ
戦略 1		
島根県における地域連携プラットフォームである「しまね産学官人材育成コンソーシアム」において策定される島根県の高等教育のグランドデザインを本学における教育に反映させる。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①「島根県版高等教育のグランドデザイン」の人材育成目標を本学のカリキュラムに令和 6 年度入学生から反映させるため、教学マネジメント委員会、各学部がカリキュラムの改訂案を策定する。【①-2-①】	「島根県版高等教育のグランドデザイン」の人材育成目標を反映させた全学 DP, CP を策定した。これらを踏まえ、各学部において令和 6 年度入学生から実施する新たな全学基礎教育及びクロス教育のカリキュラムを策定し、各学部の履修規則に規定した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 1		
【地域と一体となって「島根に愛着を持ち島根を元気にする」人材育成・定着を強化する】 自治体、産業界、教育界等との協議により地域のニーズを把握・共有し、「地域愛にあふれ、地域課題を把握し、リーダーシップを発揮して地域の未来を牽引することのできる人材」を育成すると共に、県内就職者を増加させる。		
		Ⅱ
戦略 2		
企業と一体となった授業等のプログラム数の増加、県内企業へのインターシップの質的及び量的向上を図ると共に、学生と地元産業界とのきめ細かく実効性のあるマッチングを強化することにより、地域社会を支える人材を県内に定着させる。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
<p>①大学教育センターと地域未来協創本部は、県内企業等事業所へのインターンシップ等（タイプ 1～4）への参加者を 213 名に増加させる。【①-2-②】</p> <p>②大学教育センターと地域未来協創本部は、「経営者の抱持ちインターンシップ」、「長期（有償型）インターンシップ」等の実践型インターンシップへ 10 名以上参加させる。【①-2-②】</p> <p>③大学教育センターと地域未来協創本部は、学部等と協働して企業共同型で実施する授業を 2 科目増やし、令和 6 年度から 14 科目にする。</p> <p>④地域未来協創本部と大学教育センターは各学部と協力して、令和 5 年度の県内就職率 32.7%を達成する。【①-2-③】</p>	<p>県内企業等事業所へのインターンシップ等に学生 241 名が参加した。</p> <p>また、長期インターンシップに 21 名（21 件とも有償）、給与等の支給があるインターンシップに 22 名（長期有償型インターンシップ 21 件を除く）、抱持ちインターンシップに 39 名が参加した。</p> <p>県内就職率は 25.8%であった。（令和 4 年度：29.9%，令和 3 年度：31.2%）</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 1		
【地域と一体となって「島根に愛着を持ち島根を元気にする」人材育成・定着を強化する】 自治体、産業界、教育界等との協議により地域のニーズを把握・共有し、「地域愛にあふれ、地域課題を把握し、リーダーシップを発揮して地域の未来を牽引することのできる人材」を育成すると共に、県内就職者を増加させる。		
		Ⅱ
戦略 3		
グローバルな視点から地域の特性や課題を再発見したり、地域に世界を呼び込むようなグローバルな感性を養うため、地域貢献をめざす学生の海外研修や留学の経験を促進する。また、海外からの留学生が地元企業へ就職するためのサポート体制を強化する。		
		Ⅱ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実績 検証
	成果等	課題等
<p>①国際センターは地域未来協創本部と連携して、「地域人材育成コース」履修生に海外研修（オンラインを含む・グローバルイシュー海外実践研修等）を必ず受講するよう指導し、対象学生の 30%にあたる 34 名の学生を海外派遣させる他、島根県グローバル人材育成支援事業を活用し、6 名の学生を海外へ派遣する。【⑫-1-①】</p> <p>②国際センターは学生支援課と連携し、地元就職を希望する留学生の個別面談、地元企業で働く卒業留学生の体験報告会、中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携した地域就職活動等を行い、7 名の留学生を地元就職させる。【⑫-2-①】</p> <p>③外国語教育センターは、日本語を苦手とする大学院生を主たる対象として、前期及び後期に日本語補講(15 クラス) 及び S-Spring 採択者用の日本語講座(2 クラス) を開講し、日本語能力向上のためのサポートを行う。【⑫-2-①】</p>	<p>地域人材育成コース履修生のうち、計 7 名がグローバルイシュー実践海外研修（オーストラリア）等に参加するとともに、島根県グローバル人材育成支援事業に 4 名が合格し、海外留学を行った。</p> <p>しまね国際センターで働く卒業留学生を講師とする就職セミナーを開催して 7 名の留学生が参加した他、松江市内の IT 企業及び温泉宿泊施設を訪問し、それぞれ 6 名と 5 名の留学生が参加した。</p> <p>中海・宍道湖・大山圏域市長会と連携し、インドからの交換留学生（3 名）が地元 IT 企業（2 社）でインターンシップを行った。</p> <p>その結果、2 名の留学生が地元就職した。</p>	<p>授業とタイアップする等の工夫を行いつつ、各海外研修の広報活動を強化する。</p>

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 2		
【地域目線の貢献活動を推進・強化する】 地域と一体となった協働体制を構築し、地域が真に求める課題解決など、地域目線に立った地域貢献を実施する。		III
戦略 1		
島大・地域ジョイント事業「じげおこしプロジェクト」等による地域課題解決の取組を全学的に推進する。		II
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
<p>①地域未来協創本部とオープンイノベーション推進本部は「共同研究のための島根大学研究データベース」を活用して、「じげおこしプロジェクト」等の地域課題解決の取組に参加する教員の増加を促し、大学評価情報データベースのデータマイニングで把握した地域課題に関わる教員数を基準年の令和 2 年度より 10%増の 296 名に増加させる。</p> <p>②地域未来協創本部は、各学部の窓口担当者との情報交換会を年 4 回以上実施し（4 月、8 月、11 月、2 月）、各学部が持っている人的・知的資源の活用状況や新たな展開の可能性について情報を集約して「包括連携協定市町村」の学内担当者やオープンイノベーション推進本部 URA と共有することで、大学評価情報データベースに登録された地域貢献活動の件数を基準年の令和 2 年度より 40%増の 518 件に増加させる。</p>	<p>「地域課題」に関わった教員は 256 名であった。</p> <p>また、地域課題解決に関連した取組件数は、じげおこしプロジェクト 29 件、じげおこしプロジェクト以外 399 件の合計 428 件となった。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 2		
【地域目線の貢献活動を推進・強化する】 地域と一体となった協働体制を構築し、地域が真に求める課題解決など、地域目線に立った地域貢献を実施する。		
		Ⅲ
戦略 2		
包括的連携協定を締結している市町村において、島大・地域ジョイント事業「じげおこしプロジェクト」における 1 市町村 1 プロジェクトを実現する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を執行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①既に包括連携協定を結んでいる市町村のうちプロジェクトが終了した自治体を重点的に新たなプロジェクトを立ち上げる。	「じげおこしプロジェクト」未実施の 1 市に対して、新規プロジェクト 1 件がスタートした。 また、新たに川本町とも包括連携協定を締結し、新規プロジェクト発足に向け協議を開始した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 2		
【地域目線の貢献活動を推進・強化する】 地域と一体となった協働体制を構築し、地域が真に求める課題解決など、地域目線に立った地域貢献を実施する。		Ⅲ
戦略 3		
地域未来協創本部において、教員個々の活動も含め全学における地域貢献活動を可視化し、学内外に広報すると共に、その分析を基盤に更なる地域貢献の強化を図る。		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
①地域未来協創本部は、令和 4 年度までに収集した地域貢献活動データをグラフ等により可視化し、強みのある分野や社会実装可能な成果のリストをアップデートして地域貢献活動の支援に活用するとともに、教員への聞き取りや確認を行って「じげおこしプロジェクト」の好事例や地域貢献活動のトピックスをまとめたパンフレットを作成して学内外でのイベントや渉外活動時に活用し、公式 HP や SNS およびマスコミ等を通じて公表する。	じげおこしプロジェクトの好事例をまとめたパンフレットを作成し、連携協定を締結している市町村へ配布した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 3		
【地域における課題解決に資する研究を推進し、地域を活性化する】 地域産業の強み、特色をさらに伸張させる研究や地域社会の複合的な課題の解決に資する研究を推進し、地域の活性化・発展に貢献する。		
		Ⅲ
戦略 1		
地域未来協創本部等が、県内自治体、産業界やしまね産業振興財団及び島根県産業技術センター等の企業支援組織と連携して地域課題に関するニーズを把握し、関連専門領域の教員とのマッチングを行うことにより、地域と連携した研究を創出する。		
		Ⅲ
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績 検証	
	成果等	課題等
<p>①地域未来協創本部とオープンイノベーション推進本部は、県や産業振興財団等と協働して情報交換会を年 12 回以上開催し、イベントや支援活動・制度等の情報を共有する。</p> <p>②地域未来協創本部とオープンイノベーション推進本部は、県内企業の研究・開発関係者と大学研究者が合同で開催するニーズ・シーズに関する発表会を企画・実施して、県内企業と教員とのマッチングを加速し、地域と連携した研究を 4 件創出する。</p>	<p>県や産業振興財団等と協働して情報交換会を年 12 回開催した。</p> <p>技術コミュニティラボを 2 回開催するとともに、理系学部・研究科の教員・大学院生・学生と地域企業の研究者・技術者の研究技術発表会 2024 を開催した。</p>	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

地域・社会連携ビジョン		
地域と一体となった協議により地域課題を把握・共有した上で、地域社会を支える多様な人材を育成すると共に、地域産業の振興、地域課題解決に資する研究、地域の活性化・発展、地域の学校教育の水準向上に貢献するなど、島根県の知の拠点としての機能を強化する。		
		自己評価
目標 3		
【地域における課題解決に資する研究を推進し、地域を活性化する】		
地域産業の強み、特色をさらに伸張させる研究や地域社会の複合的な課題の解決に資する研究を推進し、地域の活性化・発展に貢献する。		
戦略 2		
地域や地域産業の活性化に資する研究について、学術的価値がさらに高まる研究を推進し、それを産業界に還元する。		
令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】		令和 5 年度実績 検証
	成果等	課題等
<p>①地域未来協創本部とオープンイノベーション推進本部は、県や産業振興財団等と協働して県内企業と教員とのマッチングを加速し、県内共同研究・受託研究の契約件数を 84 件（令和 4 年度 82 件）、地域課題の解決に資する研究件数を 160 件（令和 4 年度 136 件）にする。【①-3-①②、②③-1-①】</p> <p>②地域未来協創本部とオープンイノベーション推進本部は、教員の研究内容を活用して 2 件製品化する。【①-3-①②、②③-1-①】</p>	<p>「実験動物を使わない大学教育用薬理学 VR ソリューション」の販売及び「無限レシピ（減塩レシピ）」を実用化した。</p> <p>県内共同研究・受託研究の契約件数は 81 件（令和 4 年度：82 件、令和 3 年度：76 件）、地域課題の解決に資する研究件数は 110 件（令和 4 年度：136 件、令和 3 年度：107 件）となった。</p>	